

転居された方は事務局 (svcf-admin@svcf.jp) まで転居先をお知らせください

## 第123回院内集会～シリーズ「明日のわがふるさと」

### VI 川内ワイン株式会社

(猪狩 貢 代表取締役社長に聞く) 報告

福島原発行動隊は3月23日、川内村の川内ワイン株式会社 猪狩 貢 代表取締役社長を講師にお招きして第123回院内集会（参議院議員会館会議室およびオンライン）を下記の通り開催しました。「明日のわがふるさと」につきお話しいただくシリーズ講演会の6回目です。

- ・ 日時：2023年3月23日（水）11:00～12:15
- ・ 開催方式：参議院議員会館会議B108会議室およびオンライン（Zoom）
- ・ テーマ：明日のわがふるさと
- ・ 講師：川内ワイン株式会社代表取締役社長 猪狩 貢氏

※ [猪狩社長のご講演内容の詳細はこちらか右QRコードからご覧ください。](#)



講師の猪狩社長は川内村からのオンラインによるリモート講演でした。



前川内村副村長の猪狩氏は、福島原発行動隊が福島に出向いてモニタリングや各種復興支援の行動を行っていく上で、いちばん長くいちばん緊密な関わりを持ってきた自治体関係者のお一人です。

副村長在任中から、かわうちワイン株式会社の筆頭株主である川内村を代表する取締役としてワイン事業の立ち上げ、ワイナリーの建設を主導してこられました。

原発事故直後には全村避難を余儀なくされた川内村の復興/振興策を進めていく上で、ワイン事業がどのような意味を持つか等を含めてお話いただきました。

行動隊は、過去7年来このワイン事業への支援活動を続けてきました。講師の猪狩氏からは行動隊の支援活動につき謝辞をいただきました。行動隊としても今後とも支援活動の拡充していくことにしています。

帰還困難区域での定期的な放射線モニタリング（2019年8月～2022年6月）報告

大熊町/富岡町モニタリングプロジェクト事務局担当者 麻生良二

早期帰還を希望する被災者住民有志の方々（帰還困難区域住民）のご要望にもとづき、3回のモニタリング（2019年～2022年）を実施した。

(1) 第一回

①実施日、場所

- ・2019年8月30日大川原地区帰還区域
- ・8月31日大熊町帰還困難区域

②参加者

- ・避難中の被災者4名（帰還困難区域に在住していた方々）
- ・福島再生の会会員2名
- ・行動隊員2名（渡辺（仙台在住）、麻生）

③実施方法

- ・モニタリングカー（国立高エネルギー研究所開発システム搭載）走行による地域道路上での連続自動測定と携帯型測定器での測定を行なった。

④実施結果

- ・大川原地区帰還区域：平均 $0.6 \mu\text{Sv/h}$ 、最大値 $2.5 \mu\text{Sv/h}$
- ・大熊町帰還困難区域：平均 $2.3 \mu\text{Sv/h}$ 、最大値 $8.7 \mu\text{Sv/h}$

(2) 第二回

①実施日、場所

- ・2021年9月13日大川原地区帰還区域、大熊町帰還困難区域

②参加者

- ・避難被災者有志3名（帰還困難区域に在住していた方々）
- ・福島再生の会会員2名
- ・行動隊員2名（山田、麻生）

③実施方法

前回と同じ

④実施結果

走行モニタリング結果は第一回測定結果と同程度の線量率であったが、携帯型放射線測定器では一部局所的に線量率の高い場所が認められた。

(3) 第三回

①実施日、場所

- ・2022年6月3日 大熊町帰還困難区域

②参加者

- ・避難被災者有志1名（帰還困難区域在住被災者）
- ・行動隊員1名（麻生）

③実施方法

前回と同じ

④実施結果

走行モニタリング結果は第二回測定結果と同程度の線量率であり、携帯型測定器では、第二回モニタリングで線量率の高かった場所では今回も有意に高い線量が再確認された。

(4) 謝辞

大熊町、富岡町における三回のモニタリングは、被災された住民有志の方々と福島再生の会殿のご協力なしには実現不可能であり、福島復興支援活動としての成果も望めなかったところです。モニタリングに参加された住民各位と福島再生の会殿に深く御礼申し上げます。

4月の予定

<院内集会（オンライン）>

4月21日（金）13:30～14:30

第124回院内集会

シリーズ「明日のわがふるさと」Ⅶ

伊澤史朗 双葉町町長に聞く

<SVCF通信157号>

4月28日（金）発行予定

<連絡会議>（右地図参照）

以下の各金曜日10:30から淡路町事務所

4月7日、14日、21日、28日

